

數個の民蒙學堂あるも、實は有名無實たるに過ぎず。軍隊は練軍、綠營の二に分ち、練軍は歩隊二百餘、馬隊一百餘、綠營は城内に五營、又城外の各所に駐屯するもの三十五營と註せらるゝも、該一營は其の當初一百名と定められたるに拘らず、漸次減少して、現在僅々數十名に過すと云ふ。宗教は天主教徒約一百、耶蘇教徒約五十、回教徒五六名、外國人は佛國宣教師五名、英國宣教師三名、外に獨佛商人の時々到る者ありて、主なる輸出品は阿片、羊毛、牛皮とし、外國よりの輸入品は「マツチ」金巾、染料、カタン、絲、鏡、玩具の類最も多く、而も我國品其の大部を占めたり。燃料は薪、石炭、穀程、馬糞にて松材の薪は専ら其の西山、南山より、石炭(粉炭)は西山より産し、飲料は河水、井水共に好良なり。蓋し當地を以て、支那本部郵便設置の終末點とす。

古梁の涼州も何等の興味を興ふるもの無く、二十七日匆匆結束して依然西方に向ひ、五里墩を経て海截大河を渡る。海截と云ひ、大河と云ふ、唯々其名を聞くのみにて、如何なる奔騰の激流ならんかと。思ひしに豈計らんや實は僅々幅二米突を出せず而も容易に徒涉し得べき一小流に過ぎざりき。十里堡に到りて清水河(幅三米突能く徒涉し得べし)を十五里堡、二十里堡、驛城墩、三十里堡、三十五里堡、四十里堡を通過して